

ドイツ剣道界の実情 ドイツ剣道連盟冬期講習会

小森富士登

Fact of German Kendo circles
—Kendo course in winter of german kendo federation—

Fujito Komori

I 【はじめに】

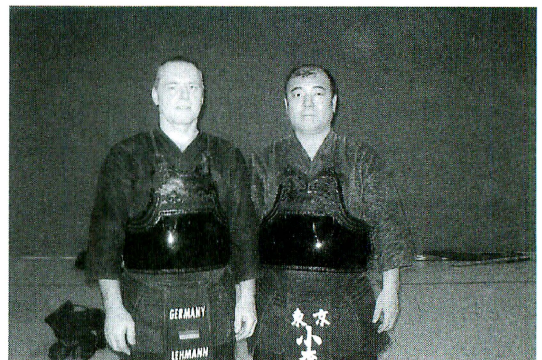
剣道の国際化は、国際剣道連盟（IKF）が1970年に設立され、第1回世界剣道選手権大会が日本武道館において開催された当時は17カ国・地域が加盟していた。それから第12回世界剣道選手権大会がイギリスのグラスゴーにおいて開催された2003年7月現在、44カ国・地域を代表する団体が加盟するまでに発展している。

さて、私自身のドイツでの剣道指導は1983～1984年にハノーバー剣道クラブに始まり、1984～1985年にブンデストレーナーでドイツの各剣道クラブでの指導を行い20年間の交流である。今回、ドイツ剣道連盟の要請により2004年1月2日～6日（Suttutgart）、2004年12月26日～31日（Lindow）、2005年1月2日～6日（Regensburg）の3カ所にてドイツ剣道連盟の剣道講習会（Lindowは講師）、（Suttutgart, Regensburgは主任講師）の指導を行う機会を得たのでドイツ剣道界の実情について調査した結果を検討する。

II 【ドイツ剣道連盟講習会】

Lindowはドイツ北部地区、Suttutgart, Regensburgはドイツ南部地区の剣道家を中心した剣道講習会である。ドイツ剣道連盟冬期合宿（Lindow）では、佐藤成明範士8段（国士舘大学剣道部師範）が13年間続けて主任講師として指導されている。合宿所は、ベルリンから車で1時間ほど（150km程）のところにある旧東ドイツのLindowという小さな町の外れの森の中にあるスポーツ施設（旧東ドイツ時代は、ナショナルチームの強化合宿所）で、規模は日本では見られない桁外れの敷地に空調設備（暖房）のある宿泊所と体育館及び室内プール、隣接にはサッカー場が2面ある。周りには、アイシャーというドイツ特産の樹木と白樺等が生い茂り、すぐ下には周囲

7.5Km の大きな湖が美観を一段と装うていた。各州の剣道クラブから男女約 120 名（初心者～7 段）の参加があり、朝稽古は午前 6 時 30 分より午前 7 時 30 分までの 1 時間を剣道形、午前中の稽古は午前 9 時 30 分より午前 12 時まで、午後の稽古は午後 3 時 00 分より午後 6 時 00 分の 3 回の稽古のスケジュールであった。参加者を 3 グループ（ナショナルチーム・17 歳以下・17 歳以上）に分かれての講習が行われた。ナショナルチームの指導は、毎年日本剣道連盟から派遣されているブンデストレーナーが行い、今年は国士舘大学 OB である染谷恒治教士 7 段（千葉県警）が派遣されていた。17 歳以下は、剣道形 5 本目までの習得と基本技の指導。17 歳以上は、木刀による剣道基本技稽古法・審判法・基本技の指導などを行った。



また、ドイツ南部地区剣道講習会の合宿所は、Suttutgart Sport Schulle, Regensburg Sport Schulle で行われた。特に今回の剣道講習会が行われた Regensburg Sport Schulle は、ドナウ河の川辺にあり静かで剣道を行うには最高の環境であった。Regensburg は、バイエルン州のオーバープファルツの首都でドナウ河畔にあり大聖堂と石橋で有名でもあり 2000 年にもさかのぼる歴史と文化を誇る都市である。旧市街地には古代ローマの遺跡や、中世時代の栄光をいまに伝える塔が立ち並び、石畳の小路を飾るロマネスク、バロック、ロココそして近代建築の家並みが巧みに調和し、独特の美しさをかもしだしていた。

ドイツ南部の剣道クラブから男女約 70 名（初心者～6 段）の参加があり、午前中の稽古は午前 9 時 00 分より午前 12 時まで、午後の稽古は午後 3 時 00 分より午後 6 時 00 分の 2 回の稽古のスケジュールであった。講習会内容は、礼法・木刀による剣道基本技稽古法・日本剣道形 10 本審判法・基本技・講義（礼法及び打突の機会）の指導などを行った。ドイツ剣道連盟は 2004 年に 25 周年を迎え、ドイツ剣道の興隆を図るために今までのブンデストレーナー等を講師に招き春季・夏季・冬季の剣道講習会や女性剣士のための講習会などを開催している。これらの講習会時に昇段審査（初段～5 段）や昇級審査（6 級～1 級）も行われている。

Ⅲ 【級・段・称号審査】

ドイツでの昇段審査は、国際剣道連盟（IKF）の規約に準じ 5 段までの審査が行われている。しかし、剣道初段を受験する以前に六級審査から始まり、初段を受験するには最短でも 3 年間の剣道修行が必要である。ドイツ剣道連盟の会員で 7 段は 5 名・6 段は 7 名であり、4 段までは連盟会員で審査することはできるが 5 段審査は審査員が定員不足である。従って、日本から高段者（7 段以上）の講師を招待した講習会時に昇段審査が行われている。

今回の昇段審査は、12 月 30 日午後に初段～5 段までの昇段審査を行い、23 名の受験者で全員が合格であった。初段から参段までの審査は、まず日本剣道形 10 本を行い、形が終了した時点で合否の発表がなされ、次に合格者が基本技・実技の審査を受験し、合否が発表される。4 段・5 段は、全日本剣道連盟と同様の形式で行われた。このように、全日本剣道連盟の審査とかなり違っているがこれがドイツ剣道連盟の昇級・昇段審査の特徴ともいえるであろう。（表 1 参照）

表 1 昇段審査の内容の相違

	ドイツ剣道連盟	全日本剣道連盟
初 段	形 10 本・切り返し・応じ技・実技	実技・形 3 本・学科提出
式 段	同 上	実技・形 5 本・学科提出
参 段	同 上	実技・形 7 本・学科提出
四 段	全日本剣道連盟と同じ	実技・形 10 本・学科提出
五 段	全日本剣道連盟と同じ	実技・形 10 本・学科提出

なぜこのようにドイツ剣道連盟と全日本剣道連盟の段審査内容に相違点があるのかを調査した結果、

1. ドイツ剣道連盟はドイツ柔道連盟（DJB）に所属しているために、ドイツ柔道連盟の規約に準じ有段者は指導者として認識され処遇もされている。また、各州の剣道クラブには高段位の剣道指導者が少ないために、有段者は高度な技術と知識が必要とされるのである。
2. ドイツ剣道連盟の会員は 1000 名位で各クラブも大体 20 名～50 名と比較的に小さな規模で、級審査・段審査費はドイツ剣道連盟・各クラブの運営費にも重要な役割を果たしている。

などの理由があることがわかった。

また、剣道には称号（6 段より錬士、7 段より教士、8 段より範士）があり、それ

それぞれの審査資格や審査方法などが定められている。日本では称号試験は年2回（5月と11月）開催されるが、ドイツ剣士は3年ごとに開催される世界剣道選手権大会時か渡日して受験しなければならない。特に、教士の資格は世界剣道選手権大会や国際試合の審判員になるには不可欠なものである。したがって、6段・7段審査や錬士・教士審査についての要点等の多くの質問があった。

IV 【指導上の問題点と留意点】

ドイツで剣道が開始されたのは1966年で、今日までの39年歴史がある。1978年以降毎年、全日本剣道連盟に要請し6ヶ月間滞在の指導員（警察官・教員）を迎えたり、春期・夏期・冬期講習会時に高段者の講師を招き、ドイツ剣道の強化向上に努力している。

しかし、指導上いくつかの問題点もありそれを明らかにするとともに留意点について述べると、

（問題点）

- ① 竹刀を腕力で振り回す。
- ② 構えや体さばきの動作が堅い。

（留意点）

問題点①に対しては、「手の内」の指導で改善されると思われる。これは、竹刀の握り方と力の入れ方などのことで、打突の際の技や刃筋などに関連するもので勝負に大きく影響するものであり剣道修行の基礎でもある。手首・掌中の柔軟性を説明し竹刀の打突部を振るように留意する必要がある。

問題点②の構えの堅さは手の内にも関連しており、前述した指導で改善される。体さばき関しては、特に応じ技時の手首や膝の関節の柔軟な動きが必要であることを説明し、素振りや技の練習の時にこれらを取得できる練習法を取り入れるように留意する必要がある。

などが上げられる。これらは、剣道修行開始時の年齢に深く関連していると思われる青少年時代から習い始めた剣士はこれらの問題は比較的になく、開始時の年齢が高くなるにつれて多くなる傾向がある。

V 【課 題】

ドイツ剣道連盟は、世界剣道選手権大会においてもI部リーグに所属し、欧州においてもトップレベルまでに発展してきている。しかし、いくつかの課題も残されてるのを調査した結果、

① 高段者の不足

ドイツ剣道連盟の会員で7段は5名・6段は7名と少ないために、5段審査は連盟会員だけではできない。

② 剣道人口の低迷

各クラブは、会員募集にはホームページの開設などで新人獲得は以前より容易であるが仕事や地理的条件などで止める会員も多いようである。

③ 剣道用具の輸入

剣道防具の修理に関しては、Lindowでの講習会期間中にスポーツホール内で修理屋ドイツ人で剣道経験者)が主張営業を行っていた。また、竹刀販売業者も中国製の竹刀や付属品を販売していた。ドイツでは空気が乾燥しているために、竹刀は壊れやすい。カーボン竹刀も使用されているが基本練習での使用が多い。四段以上の剣士は竹刀を使用している者が多く、竹刀特性の感触(弾き、しなり)がカーボン竹刀にでは感じられないようだ。このように以前より剣道用品の購入や修理は用意であるが、まだまだ日本からの輸入に頼る方が多いようだ。などが上げられるがこれらは近い将来解決されるであろう。

VI 【むすび】

以上、粗雑ではあるがドイツ剣道界の実情を述べてみた。ドイツ剣道連盟はいろいろな課題はあっても異国の文化を認め、1978年以降毎年、全日本剣道連盟に要請し6ヶ月間滞在の指導員(警察官・教員)を迎えたり、春期・夏期・冬期講習会時に高段者の講師を招き、ドイツ剣道の強化向上に努力している。今回は、Lindow, Regensburgと18日間の短い冬期講習会であったが、指導者不足の各クラブから多くの剣士が参加し、純粋に剣道に取り組み、またどん欲までに質問もあり、剣道に対する熱意と真面目さに感動された講習会であった。

このドイツ剣道連盟の人々と20年近くの文化交流する機会を得られたことに感謝し、関係諸機関に感謝申し上げて、稿を締めたい。